

第1回稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議  
議事概要

日時：平成24年7月3日（火） 14:00～16:00

場所：中央合同庁舎4号館4階第4特別会議室

議事次第

1. 開 会
2. 川端達夫地域活性化担当大臣 挨拶
3. 後藤齋内閣府副大臣 趣旨説明
4. 委員のご紹介
5. 座長選出、座長挨拶
6. 稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議の運営について
7. 座長代理の指名
8. 世界遺産の概要について
9. 稼働中の産業遺産の世界遺産登録推薦に係る新たな枠組みについて
10. 産業革命のヘリテージ：グローバルな継承（ニール・コソン卿）
11. 九州・山口の近代化産業遺産群の概要について
12. その他
13. 閉 会

議事要旨

《世界遺産の概要について》

《稼働中の産業遺産の世界遺産登録推進に係る新たな枠組みについて》

松浦委員

- 世界遺産の登録に関しては、法的な保全体制に加えて、地元での対応が重要であり、地方で保全のための組織をつくる新たな枠組みに期待している。

《産業革命のヘリテージ：グローバルな継承》

コソン委員

- 産業遺産は、世界中の人々から注目されている分野である。
- 英国に端を発し様々な国に広がった産業革命は、社会的、経済的、政治的に大きな影響をもたらしたものであり、こうした重要な進展に関連する遺産を守ることは大切なことである。
- 産業遺産に関する国際機関である TICCIH が 1972 年に設立され、ICOMOS との協力も強化され、産業遺産に関する基本的考え方も整理されてきている。
- 日本を含む多くの国で産業化においては地元のコミュニティが大きな役割を

果たしてきており、遺産の専門家等はこの点をより理解することが重要である。

- 産業化の動きは、単一の国で成り立ったわけではなく、他の国での産業化の動きとつながっている点に注目することが重要である。

#### ブンバル委員

- 産業遺産の管理保全に関する基本原則と行動指針となる ICOMOS・TICCIH 共同原則が昨年策定されたところであり、これを日本が、具体的取組みにおいて適応させる初めての国としてどのように対応していくのか非常に興味深い。

#### ピアソン委員

- ユネスコの作業指針においては稼働資産、非稼働資産の区別はなく、適切な保全管理がなされれば世界遺産登録が可能である。
- 日本は今回の閣議決定により、稼働中のサイトについて、効果的な管理を行い、UNESCO のオペレーショナルガイドラインに定められた要件を満たす手法を整備した。

#### 小野寺委員

- ダージリン・ヒマラヤン鉄道のようなケースでは不動産を中心に考えてストーリー展開していると思われるが、レールや枕木の交換等をした場合も、真正なものとして認められるのか。

#### ブンバル委員

- 枕木の変更などは、OUV に影響を与えずにオペレーションを維持するためのメンテナンスの一部とみなせるが、駅や信号機等を全て変えるとなると完全性・真正性が少し問題となる。

#### コソン委員

- 管理保全計画において、あらかじめ真正性、完全性を確保するための将来の管理の進め方の枠組みを決めることにより解決することができる問題と考える。

#### ピアソン委員

- まず資産の価値を把握し、構成資産が OUV にどのように貢献するのかを認識し、保全のための計画を策定していくこととなる。稼働資産についても、稼働を継続する中で、変更の限界を認識し、明確にしておくことが重要である。

#### 宗田委員

- ICOMOS・TICCIH 共同原則の第 8 項と 1993 年の奈良文書とは、平仄があっていると考えるとよろしいか。

#### ブンバル委員

- 奈良会議での真正性の議論は設計(方法)や材質という側面だけに限定されたものではなく、例えば機能なども含んでおり、このことは ICOMOS・TICCIH 共同原則にも反映されている。

#### 《九州・山口の近代化産業遺産群の概要について》

#### 松浦委員

- 日本の近代化産業は、19 世紀後半（江戸末期より明治の中頃まで）を中心に据え世界的にも注目されており、非常にいいイニシアティブである。
- 対象とする年代は、日本が日露戦争に勝つ 1905 年で打ち切るべきではないか。

#### 杉山委員

- 日本の工業化は明るい面だけではなく、社会問題化した炭鉱における過酷な労働の問題や日本の軍事的な進出にも絡むという点も頭にしておくことが必要である。
- 炭鉱は閉山とともに坑口を閉めることとなるが、このような炭鉱で世界遺産となった事例が海外にあるのか。
- 民間企業の産業関連の文書の保存について、政府レベルで保存のシステムを考えるべきではないか。
- 端島（軍艦島）は、インダストリアルヘリテージ（産業遺産）というより、インダストリアルルイン（廃墟）と呼んだほうがいいのか。

#### コソン委員

- イギリスをはじめ世界の多くの国で、来訪者が地下まで降りられる稼働を終えた炭鉱はある。
- 文書の保存に関しては、ユネスコの世界記憶遺産に登録されている田川の山本作兵衛の絵画が、当時の炭鉱の様子を明確に記録している。
- 端島（軍艦島）は、日本の炭鉱の歴史をよく反映していると考えられる。

以上

※ 海外専門家の発言概要（英語版）については、別紙参考のとおり。

(参考)

第1回稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議  
海外専門家委員の発言概要（英語版）

コソン委員 (Sir Neil Cossons)

- Industrial revolution, which took place first in the UK, then in many countries, had significant social, economic and political impacts.
- TICHHI, the international organization regarding industrial heritage, was established in 1972, and has strengthened the collaboration with the ICOMOS. Consequently, the basic principle regarding the conservation, etc. of industrial heritage has been developed and clarified.
- In many countries – not least Japan – community support for industrial heritage is strong; this is not always understood by heritage professionals and agencies.
- It is important to note that the industrialization in one country was closely linked to that in other countries.
  
- The problem (raised by Mr. Onodera, regarding the maintenance of railway facilities) can be solved by clarifying the future strategy regarding the conservation and management for maintaining integrity and authenticity, in the CMPs.
  
- There are many closed coal mines, where visitors can go down to the underground level in the UK and other countries.
- Painting by Mr. Sakube Yamamoto, which was inscribed as the World Memory Heritage, and depicted how coal mines worked in these days, is remarkable example of the document conservation from the international viewpoint.
- Hashima is the heritage which illustrated the history of the Japanese coal mining.

ブンバル委員 (Dinu Bumbaru)

- The Joint ICOMOS-TICCIH Principles for the conservation of industrial heritage sites, structures, areas and landscapes, were adopted in 2011 to clarify the basic concepts and principles, and to guide actions regarding the management and care of industrial heritage sites.
- It is noteworthy to see how Japan will adapt the principle to actual management activities. It's the first nation to do so.
- Drastic replacement including that of stations, signals, and so on, could cause a problem regarding the integrity and authenticity, though replacement of sleepers could be regarded as necessary maintenance works to sustain operations without affecting the Outstanding Universal Value.
- Discussions in Nara shed lights on the dimensions of authenticity which are not limited to design and material substance, such as function, and are reflected in the Joint ICOMOS-TICCIH Principles.

ピアソン委員 (Michael Pearson)

- The Operational Guidelines for the Implementation of the World Heritage Convention makes no distinctions between sites that are still in operation and sites that are not in operation.
- Japan now has the tools, through the cabinet decision, to effectively manage operational sites and satisfy the UNESCO Operational Guidelines.
- After clarifying the heritage value of the property and recognizing how the property contributes to the OUV, the CMP should be developed.
- With regards to the operational property, it is important to clarify the limit of change while building an environment where the operation could be sustained.